

博士論文要旨

学籍番号 1206003	氏名 森 仁実
論文題目	訪問看護ステーションの活動を活性化する方法に関する研究
目的 岐阜県の訪問看護ステーションを素材にして、地域資源としての機能を発揮する可能性を追求することにより、訪問看護ステーション（以降、ステーションと記す）の活動を活性化する方法を検討する。	
方法 本研究は、以下の3つの方法で構成されている。 1．全国レベルで見た岐阜県の位置づけを確認するため、全国との比較において岐阜県の訪問看護サービス提供実態を把握する。 2．岐阜県と類似した地域特性の中で有効に機能している4ステーションの管理者に面接し、活動実績からステーションが地域社会で機能するために「重要となる要素」を探索する。 3．岐阜県の一老人保健福祉圏域内にある10ステーション（以降、A圏域ステーションと記す）について、地域資源として機能を発揮する可能性を追求するため管理者と面接する。面接では、ステーション活動の現状を把握すると同時に活動を発展させるための意見交換も行き、地域におけるステーションの活動基盤づくりに関する管理者の認識を捉える。ステーションの機能を高める可能性は、管理者が課題と表明したことを起点にして、方法2で明らかにした「重要となる要素」、事業体としてのステーションの特徴、関連する地域資源の状況を加味して、事例別に検討する。	
結果 方法1より、岐阜県のステーションは全国と比して従事者1人当たりの訪問回数は多いが存続率は低くなっており、運営上の課題の存在が窺えた。方法2より、29個の「重要となる要素」が抽出され、【適切な訪問看護サービスの提供】【援助関係者とのパートナーシップ構築】【家族を単位とした看護の展開】【地域資源としての基盤づくり】【組織内部の基盤づくり】【地域ケア充実に向けた貢献】の6つに分類できた。方法3より、A圏域ステーション管理者の認識には、【組織内部の基盤づくり】に関する困難が多くみられ、5事例にステーションを経営する意識の希薄さがみとめられた。A圏域ステーションが機能発揮する可能性を検討したところ、「重要となる要素」は可能性を見出すために有用であり、新たな視点として、《経営状態を踏まえたステーション運営》並びに《自施設の地域資源としての特徴の考慮》が確認された。また、「重要となる要素」の各分類をステーション活動に位置づけることにより、地域社会で有効に機能するステーションの姿を描くことができた。	
考察 「重要となる要素」の6つの分類をステーション活動の中で具現化することで、ステーションは地域における有効な資源となり、これがステーションの活動を活性化していくと考える。これを促すには、ステーション管理者機能の向上、現任教育の方法開発、ステーションの公共性発揮に向けた行政による支援、社会的責任を果たす看護専門職の基盤をつくる看護学基礎教育の充実が必要であると考えられる。	

平成20年度博士論文審査結果報告書

主査 小西 美智子

副査 黒江 ゆり子

副査 小野 幸子

平成20年度博士論文の審査及び最終試験を実施した結果は、下記のとおりです。

記

学籍番号：1206003

氏名：森 仁実

審査結果： 1.合格 2.不合格 3.保留

[審査結果要旨]

(1,000字以内)

本研究(研究題目「訪問看護ステーションの活動を活性化する方法に関する研究」)は、地域看護学を専門とする教育・研究者として本学に在籍しながら取り組んだものである。

地域に直結した在宅療養支援として、重要な役割を担う訪問看護ステーション(以下ステーションと省略)の設置数が目標に達していない一方で、休・廃止せざる得ないステーションがある現状を背景に、岐阜県のステーションを素材に検討し、地域に根ざして、その機能を高める方法を明らかにしている。

まず、全国レベルからみた岐阜県のステーションは、従事者一人当たりの訪問回数は多いが存続率が低いという実態から運営上に課題があることの示唆を得ている。その上で、岐阜県と類似する地域特性を持ち、有効に機能していると捉えられた4ステーションの管理者対象の面接によって、地域で機能するための「重要な要素」として、【適切な訪問看護サービスの提供】【援助関係者とのパートナーシップ】など6つを導いている。次いで、岐阜県5医療福祉圏域の中で、設置状況が県平均を下回ったA圏域の10ステーションの管理者対象の面接によって、各ステーションの活動の現状を把握するとともに、上記、「重要な要素」を意図した意見交換を行い、これら6つの要素の重要性を検証し、モデル図を示している。さらに、これらから各ステーションが機能を高めるための方法として、これら6つの要素をステーション活動に位置づけるとともに、ステーション管理機能の向上、現任教育の方法開発、ステーションの公共性発揮に向けた行政による支援、社会的責任を果たす看護専門職の基盤を作る看護基礎教育の充実の必要性を提言している。

本研究で得られた成果は、全国のステーション、とりわけ活動が停滞しているステーションの活動を活性化し、発展できる方法論を創出していることにあり、看護実践改革に寄与し、かつ学術的に意義あると評価できる。

審査では、本研究科の倫理審査基準に基づいて適切に対応していること、論旨に一貫性があり明確であることを確認している。また、最終試験の口頭試問も適切に応答した。

以上、総合的にみて、本論文は、博士(看護学)論文として価値あると認める。